

いる。

(宇田 道隆)

11 1966年11月中旬サンゴ海西部海域における

マグロの手釣について

1966年11月中旬サンゴ海西部海域において1965年12月初旬同様、鳥付、鮫付のメバチ、キハダ魚群が出現し、浮上したところをブランを使用して一本釣を行ない、漁獲をあげているので、昨年(1965年)の場合と比較しながら、その時の状態を調べて見た。

操業が行なわれたのは昨年(1965年)の場合11月29日~12月7日の間であつたが本年(1966年)はこれより約20日早い11月7日には始まつており、昨年(1965年)操業が開始された時より3日早い11月26日には漁獲は終つている。操業開始点は昨年より約20マイル南方の $16^{\circ}-30'S$ 、 $146^{\circ}-30'E$ 付近で、終りは $14^{\circ}-30'S$ 、 $145^{\circ}-40'E$ 付近である。漁場はこれらの2地点を結ぶ線に沿つて相当巾広く形成されており魚群は6.9マイル/日の速さで北々西に移動している。これに対し、昨年は $16^{\circ}-15'S$ 、 $146^{\circ}-30'E$ 付近を中心に集中的に漁場が形成されており、魚群は本年とは逆に南東方向に1日4マイルの速さで移動している。

漁獲量は1日平均53尾であるが濃密域の $15^{\circ}-10'S$ 、 $146^{\circ}-00'E$ 、 $16^{\circ}-30'S$ 、 $146^{\circ}-30'E$ 付近では150尾/日程度漁獲している船も見られる。

上記の如く、操業期間は昨年より約2倍長く、操業範囲も広いが、昨年の1日平均23.9尾に比べ漁獲は非常に低下している。これらの魚種組成は最初に操業の行なわれた $16^{\circ}-30'S$ 、 $146^{\circ}-30'E$ 付近ではキハダが70%、他の海域では90%以上を占めており、キハダの割合が非常に多くなつている。昨年の場合には漁場における北西域($16^{\circ}-05'S$ 、 $146^{\circ}-45'E$)では逆にキハダが60~70%を占めている。このように昨年にくらべ、魚群の浮上期日の相違、移動方向のちがひ、総合的な漁獲尾数の減少およびメバチの減少が目立つている。なお、前年の資料は水産海洋研究会報第9巻を参照されたい。

(花本 栄二)

12 旋網サバ漁場研究問題

昭和42年2月16日10~17時、水戸市農協会館で、茨城県水産試験場と茨城県まき網漁業協同組合の主催で「まき網研究会」が開かれ、宇田道隆(東京水産大学)、川崎健(東海区水研)、葉室親正(漁船研究室)の3講師(日本水産資源保護協会派遣)の下記講演、質疑応答、討論があつた。参加者は北部太平洋海区旋網漁業生産調整組員約百名である。

宇田道隆：東北海区サバの回遊、漁場、資源量と海況の関係。

川崎 健：マサバ太平洋系群の構造及び変動について